

科目名	看護学特別研究(看護実践・看護技術開発コース)	
科目責任者	永松 有紀 (看護学専攻委員長)	
担当者	阿南 あゆみ、園本 格士朗、立石 和子 森本 眞寿代、中富 満城、中村 恵美、黒坂 知絵 岡田 なぎさ、仲野 宏子、岡田 亮	
開講時期:	2年次通年	単位数: 10 単位
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>医療機関や地域における臨床や地域における看護実践を、実証的または開発的に推進・実施するための研究能力を身につけることができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画と関連する文献を収集し、系統的に整理できる。</li> <li>2) 研究目的に沿った研究計画を立案することができる。</li> <li>3) 研究計画に沿ってデータを収集することができる。</li> <li>4) 関連文献を批判的かつ公正に読みこなし、論文作成に必要な知識を見出すことができる。</li> <li>5) 得られたデータを、適切な分析方法によって解析することができる。</li> <li>6) 結果に基づいて、適切な図表を作成することができる。</li> <li>7) 得られた結果から、他の論文等を引用し、論理的な考察ができる。</li> <li>8) 作成した論文を推敲し、質を高めることができる。</li> <li>9) 研究成果を修士論文として作成し、プレゼンテーションができる。</li> <li>10) 研究の全ての過程において倫理的配慮ができる。</li> </ol>		
● 評価方法	各所属領域で発表、討論、レポート等により総合的に評価し、最終的に修士論文の完成度で評価する。	
● 参考文献	指導の中で必要に応じて紹介する。	

● 授業計画

内容
関連した領域における指導を行い、論文を完成させる。

科目名	看護学特別研究(看護教育・人材育成コース)	
科目責任者	永松 有紀 (看護学専攻委員長)	
担当者	阿南 あゆみ、園本 格士朗、立石 和子 森本 眞寿代、中富 満城、中村 恵美、黒坂 知絵 岡田 なぎさ、仲野 宏子、岡田 亮	
開講時期:	2年次通年	単位数: 10 単位
● 科目の教育目標	<p>一般目標 (GIO)</p> <p>看護教育学を推進・実施するための研究能力、または看護職の人材育成のための研究能力を身につけることができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画と関連する文献を収集し、系統的に整理できる。</li> <li>2) 研究目的に沿った研究計画を立案することができる。</li> <li>3) 研究計画に沿ってデータを収集することができる。</li> <li>4) 関連文献を批判的かつ公正に読みこなし、論文作成に必要な知識を見出すことができる。</li> <li>5) 得られたデータを、適切な分析方法によって解析することができる。</li> <li>6) 結果に基づいて、適切な図表を作成することができる。</li> <li>7) 得られた結果から、他の論文等を引用し、論理的な考察ができる。</li> <li>8) 作成した論文を推敲し、質を高めることができる。</li> <li>9) 研究成果を修士論文として作成し、プレゼンテーションができる。</li> <li>10) 研究の全ての過程において倫理的配慮ができる。</li> </ol>	
● 評価方法	各所属領域で発表、討論、レポート等により総合的に評価し、最終的に修士論文の完成度で評価する。	
● 参考文献	指導の中で必要に応じて紹介する。	

● 授業計画

内容
関連した領域における指導を行い、論文を完成させる。

科目名			看護研究方法論(基礎)		
科目責任者			阿南 あゆみ (成人老年看護学 教授)		
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>修士論文作成にあたり、看護研究の基本的プロセスを学ぶことができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護研究の一連のプロセスを学ぶことができる。</li> <li>2) 研究遂行にあたり、倫理観や倫理的配慮を習得することができる。</li> <li>3) 論文作成の方法を理解し、自身の修士論文作成へ発展することができる。</li> </ol>					
● 評価方法	プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 20%、課題レポート 20%				
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	看護研究のプロセス(1)	看護研究の基本的なプロセスを理解する: テーマ抽出,先行研究概観	阿南
2	看護研究のプロセス(2)	看護研究の基本的なプロセスを理解する: 研究計画書作成,研究方法考案	阿南
3	系統的文献検索(1)	文献検索の基本を学び、系統的に検索する 方法を学ぶ(和文)	阿南
4	系統的文献検索(2)	文献検索の基本を学び、系統的に検索する 方法を学ぶ(英文)	阿南
5	看護研究の倫理的配慮	看護研究を行う際の倫理観・倫理的配慮に ついて理解する	阿南
6	論文の批判的分析(1)	様々な先行研究を読み、批判的分析を行なう	阿南
7	論文の批判的分析(2)	様々な先行研究を読み、批判的分析を行なう	阿南
8	論文の批判的分析(3)	様々な先行研究を読み、批判的分析を行なう	阿南
9	論文の批判的分析(4)	先行研究をまとめる手法を理解する	阿南
10	研究方法立案(1)	先行研究の分析により、自身の研究テーマや 研究方法を考案する	阿南
11	研究方法立案(2)	先行研究の分析により、自身の研究テーマや 研究方法を考案する	阿南
12	論文作成方法(1)	研究背景,研究目的,研究方法の書き方を理 解することができる	阿南
13	論文作成方法(2)	結果,考察の書き方を理解する	阿南
14	論文作成方法(3)	要旨の書き方を理解する	阿南
15	まとめ	論文作成の方法を理解し、自身の修士論文 作成へ発展させる	阿南

科目名			英語文献講読		
科目責任者		園本 格士朗	(成人・老年看護学 教授)		
担当者		松浦 祐介	(広域・発達看護学 教授)		
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>看護・医学に関する英語文献を読むための専門的・学術的な語彙力を身につける。専門用語、文法、構文などを学び、看護・医療系の英文を読み取る英語力を向上する。そのうえで、日本以外の諸外国の看護・医療分野の変遷や現状、問題点を学ぶ。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自身の研究に必要な文献検索ができる。</li> <li>2) 論文中の英語表現が理解できる。</li> <li>3) 看護・医療系の専門用語が英語で理解できる。</li> <li>4) 医学統計に関する英語表現が理解できる。</li> <li>5) 構造化抄録や論文の構造が理解でき、説明できる。</li> <li>6) バイアスが理解でき、説明できる。</li> <li>7) 批判的精読が理解でき、実行できる。</li> </ol>					
● 評価方法		プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 40%			
● 参考文献		各種英和辞典、英英辞典			

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	英語論文の読み方	英語論文を読む際の基本的な心構えと注意点	園本
2	英文構造化抄録と論文の構成	英文構造化抄録と論文の構成を実例で解説	園本
3～8	論文精読(1)	実際に各種の論文を講読し、詳細まで理解する	園本
9～15	論文精読(2)	実際に各種の論文を講読し、詳細まで理解する	松浦

科目名			医療統計学		
科目責任者			中富 満城 (人間情報科学 准教授)		
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p style="padding-left: 40px;">大学院における看護・医学研究論文を読むために必要な統計学の基礎知識を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護・医療研究における統計的用語を理解する。</li> <li>2) 記述統計について理解する。</li> <li>3) 観察研究のデザインについて理解する。</li> <li>4) 統計的解析の基本原則について理解する。</li> <li>5) 様々な統計的解析手法について理解し、実際に活用できる。</li> </ol>					
● 評価方法	出席状況・討議への参加度 50%、課題レポート 50%				
● 参考文献	中野正孝, 新版看護系の統計調査入門, 真興交易(株)医書出版部, 2003. 大木秀一, 看護統計学入門第2版, 医歯薬出版, 2016.				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	総論・記述統計	医療統計学総論・質的データ・量的データ	中富
2	散布度	ヒストグラム・中央値・分散・標準偏差	中富
3	母集団と標本	標本分布・標本平均・標本分散	中富
4	確率分布1	正規分布・二項分布	中富
5	確率分布2	期待値・標準正規分布	中富
6	推定1	標準誤差・中心極限定理	中富
7	推定2	点推定と区間推定(t分布)	中富
8	統計的仮説検定1	帰無仮説・対立仮説・棄却域・有意確率	中富
9	統計的仮説検定2	カイ2乗検定・フィッシャーの正確確率検定	中富
10	単変量解析	相関係数・回帰係数・回帰直線・回帰分析	中富
11	ノンパラメトリック検定	マンホイットニーのU検定・ウィルコクソンの検定	中富
12	疫学研究	リスク・オッズ比・95%信頼区間(CI)	中富
13	多変量解析1	重回帰分析	中富
14	多変量解析2	ロジスティック回帰分析・主成分分析	中富
15	多変量解析3	因子分析・分散分析	中富

科目名		<b>看護倫理学</b>	
科目責任者 立石 和子		(基礎看護学 教授)	
開講時期: 1年次後学期	単位数: 1 単位	時間数: 90分×	8 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p style="padding-left: 40px;">医療現場、看護実践、看護研究などにおける倫理的問題について、倫理理論や倫理原則を通して見直すことにより、自己の考え方を構築する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療・看護現場における倫理的諸問題の歴史的な変遷を理解できる。</li> <li>2) 医療・看護現場における倫理的諸問題の分析方法について説明できる。</li> <li>3) 医療・看護現場における倫理的諸問題に対する適切な対応について説明できる。</li> <li>4) 看護研究における研究倫理について理解できる。</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション 30%、ディスカッション 30%、課題レポート 40%		
● 参考文献	随時紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス及び看護倫理の理論、倫理原則	看護倫理の歴史的変遷を通して、倫理原則と看護倫理の概要を理解する	立石
2～6	看護現場における倫理:事例検討	実際の看護現場における事例を分析方法を用いて検討する	立石
7・8	研究倫理	看護における研究者の倫理を理解する	立石

科目名		<b>看護理論特論</b>	
科目責任者	立石 和子	(基礎看護学 教授)	
担当者	岡田 なぎさ	(基礎看護学 准教授)	
開講時期:	1年次前学期	単位数:	1 単位
		時間数:	90分× 8 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護学を学ぶ上で基盤となる看護の諸理論の概念、機能、構成要素を学修し、理論と実践の関係性を探求する。</li> <li>2) 自らの看護実践を振り返るために適切な理論を選択し、看護の本質を考える。</li> </ol> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護理論の歴史的社会的発展過程と役割、意義を説明できる。</li> <li>2) 看護実践と看護理論のつながりを説明できる。</li> <li>3) 適切な理論を用いて自己の看護の実践を振り返ることができる。</li> <li>4) 看護専門職として看護理論を活用して、対象に応じた看護を展開することに取り組むことができる。</li> </ol>			
● 評価方法	討議への参加度 20%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 40%		
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス 看護理論の変遷	科目のオリエンテーション 看護理論の変遷	立石
2	看護理論とは	看護理論の定義・構成要素	立石
3	看護理論の実践	代表的看護理論を通して、その主要な概念、 概念枠組と理論の特性を学習する	岡田
4～7	看護理論の実践 －症例検討－	一つの看護理論を自己の看護実践に適用する	立石
8	まとめ	看護理論の臨床への活用	立石

科目名	看護研究基盤コース	
科目責任者	久岡正典 (研究科長)	
開講時期:	1年次前期	単位数: 2単位
		時間数: 90分×15回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>産業医学研究を進めるにあたって、医学倫理・研究倫理、研究における利益相反、疫学・統計学基礎、英語論文作成手法等の基盤的な専門知識と技能、ならびに、研究を企画・遂行できる能力を修得する。学術的意義、新規性、創造性等を有する研究について、倫理性を備えて企画・推進・実施することを目標とし、その基盤を構築する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学院の使命を論じることができる。</li> <li>2) トランスレーショナルリサーチについて説明できる。</li> <li>3) 医学倫理・研究倫理について説明できる。</li> <li>4) 研究における利益相反について説明できる。</li> <li>5) 産業医学研究における疫学の手法について説明できる。</li> <li>6) 基本的な統計学的手法を使うことができる。</li> <li>7) 英語論文の作成手法を学び、投稿・発表の倫理について説明できる。</li> </ol>		
● 評価方法	発表等 60%、討論等 20%、レポート等 20%	
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。	

●授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	大学院の使命	質の高い実験系の研究は、何を明らかにするかというアイデア、具体的にそのアイデアを検討する実験系と用いる方法、および、得られた結果に対する適切な解釈と考察の三つが良く組み合わせられた場合になされる。この講義では、具体的な事例をもとに質の高い研究は如何になされるかを解説する。	学長、 研究科長、 産業衛生学専攻委員長
2	医学研究法	昨今は臨床医学研究においても、PCR法による遺伝子増幅をはじめとする基本的な分子生物学的知識と研究法の習得が不可欠である。本講義においては、肺癌におけるトランスレーショナルリサーチを例にとり、1) 癌におけるゲノム・遺伝子・タンパク異常とその解析法、2) 癌細胞の浸潤・転移の基礎的メカニズムとその解析法、等につき概説する。	田中(文) 後任教授
		産業医学研究では、産業現場における諸問題を大学の実験室で解決し、実験の成果を産業現場で応用するという産業現場と実験室の有機的結合が求められている。産業現場のみならず臨床現場にも研究のシーズとなることが多く存在している。シーズを把握し、科学的知識、研究設計、実験技術、解析などが求められます。	辻
3・4	トランスレーショナルリサーチ	トランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)とは、基礎研究の中から有望な知見を選び出し、効率的に医薬品や医療機器の実用化につなげることを目的とする医学研究の一領域である。基本的な考え方や優れた実例について学び、実用化を見据えた即戦力のある研究マインドを培う。	吉村 後任教授
		分子標的治療薬による治療革命は、関節リウマチに留まらず、膠原病諸疾患、炎症性腸疾患、神経疾患、皮膚疾患などの多様な難治性自己免疫疾患の治療へも展開され、各疾患の治療のブレークスルーを引き起こす勢いである。また、リウマチ治療の変革は、他の内科疾患と同様にQOLや生命予後改善を目標とすることを可能とした。これらの疾患の病態形成で中心的な役割を担う分子が解明され、それに対する分子標的薬が高い治療効果を挙げている。分子標的治療の最前線に関する概説により、ベンチとベッドサイドの距離が短縮されつつあることが実感でき、研究モチベーションを提供することができればと期待している。	中山田

回	項目	内容	担当教員
5	医学研究の倫理	医学研究を倫理的・社会的に健全な形で推進するための研究倫理について、医学研究が倫理的社会的に問題となった歴史的背景を踏まえた上で、現在の医学研究倫理の国際基準(ヘルシンキ宣言など)と国内基準(生命科学・医学系研究に関する倫理指針)の双方の観点から概説する。併せて、研究倫理委員会の意義と役割、倫理審査基準、利益相反と臨床研究との関係及び研究における不正防止対策について解説する。	石丸
6	研究における利益相反	現在、研究を行なう者にとって、利益相反についての理解が重要となっている。アメリカでのゲルシンガー事件などから、世界的には研究者とそれをサポートする企業との係わりについて社会的に問題視されるようになったが、日本でもタミフルやディオバンに関する問題をきっかけに利益相反が重視されるようになった。大学は益々”深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供する”ことが求められている。そのためには産学連携を推し進め、企業等との協力のもとに成果を出していくことが求められている。これらの中で研究者とその企業間の研究費等の流れを明らかにし、第三者から懸念を表明されないように適切な姿勢を示すことが、今後の研究者には必須の事項である。今後研究を進める大学院生に利益相反に関する事柄を理解して頂けるように歴史、定義、マネジメント法、産業医科大学での利益相反に関する決定事項を説明し、事例検討なども予定している。	*未定
7	統計学	臨床研究及び実験研究で必要となる統計学的分析の基本的手法について解説する。具体的には研究デザイン、サンプル数の決定、各種検定手法(パラメトリック・ノンパラメトリック)、実験計画法、多変量解析の概要について学習する。	中田
8	組織形態学観察法についての基礎知識	光学顕微鏡・電子顕微鏡による生物試料の観察は医学研究の最も基礎となる形態学的解析法である。この講義では光学顕微鏡と電子顕微鏡による組織観察をするための標本作製(組織固定、包埋、薄切、染色など)についての原理と基本知識やその注意点などについて紹介する。また、本学の共同利用研究センターが所有する顕微鏡、並びに病理標本作製室、電子顕微鏡室の利用法についての説明も行う。	王

回	項目	内容	担当教員
9	英語論文作成手法	英語論文を作成するためには、テーマの設定、投稿雑誌の選定、Abstract、Introduction、Results、Discussionなどの執筆、Reviewerへの返事など多岐にわたる作業が必要です。1年間に1時間30分の授業を行います。本講義ではこのような英語論文作成の全体像を述べ、各ステップにおける注意点などを説明させていただき、自分で英語論文を執筆する基礎を確立していきます。	澤田
10	論文投稿・発表の倫理	科学研究の目的は本来純粋に「知的好奇心を満たす」ためであったが、現在では国家防衛、経済発展、生活の質の改善等の「個や団体の利益」に変化している。競争原理の導入やグローバル化により論文の数を増やすことやランクの高いジャーナルに研究を発表することが最も重要とされる業績至上主義になった。必然的に不正が生じうる事態となり、実際不正はあとを絶たない。このため「研究倫理」が注目されるようになった。その中心テーマはオーサーシップ・ピアレビュー・データ捏造である。それらの内容について概説する。	片岡
		研究成果を公表する際の基本的な倫理について概説する。特に文部科学省が平成26年8月に定めた『研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン』、ならびに本学における研究不正行為等防止対策ガイドラインを理解する。さらに論文作成やその発表における不正行為に関する事例を紹介し、研究倫理の重要性と違反があった場合の学内外の対応についても理解する。	上野
11	研究用微生物の取り扱い	研究用微生物(細菌、真菌、ウイルス等)の特徴、および安全な取り扱い方について概説する。感染症法に基づく微生物のリスク分類、バイオセーフティーレベルに応じた適切な微生物取り扱い施設(実験室)、および器具等の使用法について解説し、実験従事者の危険または健康障害を防止するための措置等について理解を深める。	齋藤

回	項目	内容	担当教員
12	研究デザイン	医学研究の基本となる研究デザインおよび基本的な生物統計手法について紹介する。また実際に研究計画を立てる際に注意すべきポイントを、研究デザイン別に紹介する。因果推論、交絡およびパスウェイ、多変量解析、傾向スコアなどについて紹介する。	藤野(善)
13	遺伝子組換え実験講習会	遺伝子組換え実験において必要な法律および規則について説明し、遺伝子組換え生物等の取扱いや核酸防止措置に関する教育訓練を実施する。	遠藤
14	動物実験を行う上での基礎知識	動物実験や実験動物を取り巻く社会環境や我が国の動物実験の関係法について解説し、動物実験を行なうに際して、遺伝子組換え実験や感染実験など安全管理を要する事項があり、具体的な考え方と対応策について解説する。加えて各種実験動物の特徴や使用上の注意点、遺伝子改変動物の作成法についても解説したい。	川田
15	放射線及びラジオアイソトープの安全取扱い	放射線及びラジオアイソトープ(RI)の取扱いは、法令で厳しく規制されている。前半は、放射線照射装置と非密封RIの安全取扱いについて概説し、後半は、H-3、C-14、P-32、S-35、I-125などのRIを使った生命科学分野でのトレーサ実験を紹介する。	後任教授

科目名		医学英語特別コース	
科目責任者		久岡正典 (研究科長)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	1単位
		時間数:	90分×9回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>国際的な視野を持ち将来国際的に活躍するために、専門領域の講義とディスカッションを全て英語で行うことにより、国際的に通用するグローバルな能力(英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、文献読解力ならびに英文作成力)を身につけるとともに、英語の背景にあるものの見方や考え方を学ぶ。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門領域の英語を理解し、英語によるコミュニケーション力を修得する。</li> <li>2) 専門領域の英語を理解し、英語によるプレゼンテーション力を修得する。</li> <li>3) 専門領域の英語を理解し、英語による文献読解力を修得する。</li> <li>4) 専門領域の英語を理解し、英語による英文作成力を修得する。</li> <li>5) 自らの考えを論理的かつ簡潔に英語で説明することができる。</li> <li>6) 国際遠隔講義、国際学会に出席し、産業医学分野のコミュニケーション力を習得する</li> <li>7) 国際遠隔講義、国際学会などで発表し、プレゼンテーション力を習得する</li> </ol>			
● 評価方法	発表等 60%、討論等 20%、レポート等 20%により総合的に評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

●授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	大脳新皮質層形成の分子メカニズム	ヒトでの高度な知能の発揮には、大脳新皮質が最も重要な働きをしており、大脳新皮質は脳表に平行な神経細胞層で出来る6層の構造からなる。この構造は胎児期の細胞移動で形成され、この障害は重度の高次脳機能障害を引き起こす。本講義では正常な脳機能の発揮に重要な大脳新皮質の神経細胞移動を制御する分子群について、その発見に至った初期の実験結果を紹介するとともに、最新の知見についても概説する。	本田
2	細胞死の形態	生体において、細胞は発生過程における形態形成や障害など、様々な要因によって受動的または能動的に細胞死を起こす。細胞死はアポトーシス、ネクローシスおよびオートファジーを伴う細胞死などに分類される。また、プログラム細胞死＝アポトーシスという図式は元より成立しておらず、ネクロプトーシス(プログラムされたネクローシス)なども報告されている。本講義ではそれぞれの細胞死の定義を解説し、光学顕微鏡および電子顕微鏡により観察される各細胞死の形態学的な特徴を概説する。	森本
3	糖尿病性創傷治癒過程の分子メカニズム	糖尿病患者の創傷治癒は、免疫細胞の機能低下など様々な要因により遅延する。それにより、難治性潰瘍になり、QOLの低下をもたらす。創傷治癒過程は、炎症期・増殖期・成熟期で構成されるが、糖尿病性創傷治癒過程では、炎症期が長期化することが報告されている。本講義では、炎症期で主に機能する骨髄由来細胞の機能解析を中心に、創傷治癒過程の分子メカニズムについて概説する。	梅原
4	がんの分子生物学	生体における恒常性維持応答機構とは、体内外の様々な環境の変化(ストレス刺激)に対して、安定した状態を保とうとするメカニズムであり、その破綻は様々な疾患の発症につながる。近年、組織恒常性維持応答機構の変調は慢性炎症を引き起こし、発がん・がん浸潤・転移の原因となっていることが明らかになってきた。本講義では、組織における慢性炎症を切り口に、発がん・がん浸潤・転移の分子メカニズムについて概説する。	遠藤
5	睡眠生体リズムの生理機構	睡眠時間の不足や質の低下があると、労働生産性の低下にも繋がるため、睡眠の改善は産業保健現場における優先的課題である。視交叉上核でのリズム発振や、視床下部・脳幹から大脳に投射される神経機構により、睡眠・覚醒はコントロールされている。本講義では、睡眠改善の実践につなげるための、睡眠生体リズムの神経機構の基礎について概説する。	丸山

回	項目	内容	担当教員
6	組織線維化のメカニズムと治療薬の開発	線維化は脳以外のあらゆる臓器・組織で発症し、臓器を最終的に機能不全へと導く。線維化による臓器機能障害は、“筋線維芽細胞”と呼ばれる細胞から盛んに分泌される細胞外基質により、組織の弾力性や強度・機能が損なわれることにより起こる。線維化の進行を止めるべく“線維化抑制薬”の開発が、現在試みられている。線維化のメカニズムとその治療薬の開発について概説する。	高橋
7	化学物質曝露と疾患	化学物質の曝露によって生じる疾患には様々なものがあるが、職業に関連して職場の抗原に感作されて発病、または増悪する病気に職業性アレルギーがある。本講義では、職業性アレルギー疾患診療ガイドラインに従って職業性喘息、職業性アレルギー性鼻炎、職業性皮膚疾患について学習する。また職業性アレルギーをアウトカムとした実際の研究を紹介する。	辻
8	化学物質のばく露防止対策	作業環境では多くの化学物質が使用され、さらに新規の化学物質も導入される。これらの使用によるリスクを見積もり、その低減対策を行うことは産業保健活動の重点課題のひとつである。リスクの見積もり(曝露評価など)は国によって違いはあるが、リスク低減対策の考え方は国際的に共通性がある。このため、リスク低減対策としての環境改善手法と個人用保護具について英語で理解することは、今後海外で仕事をする上で有益である。本講義では、リスク低減対策の各項目の特徴とその優先順位について概説する。	東
9	飲料水ヒ素汚染	1970年代に細菌などにより汚染された表層水の利用に代わり、地下10m前後の管式井戸の設置が国際機関などにより世界中で進められた。しかし、1980年代になり、地下水に含まれる微量ヒ素による慢性ヒ素中毒の問題が明らかとなった。現在も続く世界最大規模の環境問題の一つとされる飲料水ヒ素汚染による健康問題について概説する。	藤野(善)

回	項目	内容	担当教員
10	Pathologic Basis of Human Disease	<p>Pathology is a bridging discipline involving both basic and clinical practice and is devoted to the study of the structural and functional changes in cells, tissues, and organs that underlie disease.</p> <p>This lecture aims to understand pathologic basis of human disease. More specifically, it provides an up-to-date contribution to training for acknowledged subspecialty of histopathology. It should also be helpful as a major point of resource in the practice of pathology.</p> <p>Acknowledgement of pathology should play an important part in the management of patients with any disorder.</p>	中山
11	Work, Sleep, and Health 労働、睡眠と健康 ※国際遠隔講義	<p>Good sleep is an important pillar for our healthy life. However, a recent trend in industrialized societies seems to overlook the importance of sleep in relation to work and health. In this lecture, I will present the current state of sleep research in the field of occupational epidemiology and chronobiology focusing on the following three areas: 1) The risk of insufficient sleep on work and health; 2) The effects of sleep debt and social jetlag on mental health; and 3) The risk of eating jetlag on health and productivity.</p>	中田
12	自然免疫と獲得免疫	<p>免疫応答は、自然免疫と獲得免疫に大別される。これらの反応を担う細胞群に関しても多くの情報が得られてきた。近年、細胞表面抗原の解析技術の発展に伴い、更なる新規の細胞群の同定・提唱がされてきている。自然リンパ球はその一つであり、新たな免疫システムのパラダイムを想像させる。本講義では自然免疫と獲得免疫の概説と、新たに観察されている細胞群・サイトカインの紹介を行う。</p>	吉田
13	寄生虫感染と免疫	<p>寄生虫は病原微生物の中ではサイズが大きく、その姿を変えながら体内を移行するという特徴をもつ。このことから、寄生虫感染の際に生じる免疫現象は細菌やウイルスに対するものとは大きく異なり、また寄生虫の種類や発育ステージによっても全く異なる。本講義では寄生虫感染における宿主の免疫と寄生虫の相互作用について、①防御免疫 ②免疫病理 ③寄生虫の免疫回避 ④寄生虫による免疫修飾 の4つの観点から概観し解説する。</p>	長田

回	項目	内容	担当教員
14	産業保健活動と産業医	1)わが国における産業保健政策の歴史と特徴を概説する。特に、労働者の健康診断を実施してその結果を活用する機能と責任に関する欧米先進国との相違について詳説する。 2)労働衛生分野に適用されるリスクアセスメントの概念について、英国の労働衛生庁が示す資料を参照しながら概説する。 3)企業や労働者が産業医に期待する専門性と役割について、その実務でよく遭遇する倫理ジレンマの事例に触れながら概説する。	後任教授
15	神経変性疾患の病態抑止治療	多くの神経変性疾患では、ユビキチン-プロテアソーム系(UPS)とオートファジーの機能を凌駕して変異蛋白質が蓄積し、神経変性が惹起される。アルツハイマー病、脊髄小脳変性症(SCA)、球脊髄性筋萎縮症(SBMA)などの神経変性疾患では、それぞれ異なった病因蛋白質の神経組織内への蓄積によりニューロンなどが特異的に変性死に陥る。有効な病態抑止治療のターゲットとして、これらの病因蛋白質は有力な候補となる。これらの神経変性疾患の病態抑止療法の開発の研究について、これまでの知見を概説する。	足立
16	臨床薬理学的な研究や職場のメンタルヘルスの動向などについて解説する	基本的な精神症状の評価や診断、治療方針などについて、英語で実践的な医療に対応できる基礎的な知識を習得する。さらに、精神疾患の臨床薬理学的な知見や職場のメンタルヘルスについても英語で理解し表現出来ることを目指す。必要に応じ国際遠隔講義にも対応する。	新開
17	臨床免疫学の治療の最先端	臨床免疫学の研究の目覚ましい発展により自己免疫疾患における病態が解明され、病態に応じた分子標的治療が開発され、治療が飛躍的に進歩してきた。関節リウマチに対する生物学的製剤を用いた治療は、高率な寛解導入や関節破壊の抑止を可能とし、世紀の治療革命をもたらした。斯様な治療革命は多様な自己免疫疾患にも展開されつつある。さらに、Jak阻害薬をはじめ、生物学的製剤と同等の有効性、安全性を有する経口キナーゼ阻害薬の開発にも期待が寄せられる。また、破壊された関節に対しては、幹細胞を用いた再生医療が期待される。臨床免疫学の治療の最先端に関して概説する。	中山田
18	腫瘍の分子病理とゲノミクス	実地診療や医学研究に必要な腫瘍の主な遺伝子変異に関する知識を習得することを目的とし、授業(講義)では骨・軟部腫瘍をモデルとして腫瘍発生や進展などにおける変異遺伝子のもつ生物学的役割や診断学的意義について解説する。授業内容をふまえて、それらの変異を検出・同定するために用いられる様々な分子遺伝学的手法を理解し、個々の医学研究へ応用できる知識を修得することを到達目標とする。	久岡

回	項目	内容	担当教員
19	Genomic approaches to studying the human microbiota	感染微生物研究や感染微生物の検出手法に関する最新の知見について紹介し、専門用語や技術の解説を行う。教材として、欧文紙に掲載された最新の論文を用い、英語による説明、ならびに質疑応答を交え、新しい解析手法や知識の収集能力を高める。また、科学論文の構成や表現方法について学習し、英語によるコミュニケーションおよび科学論文の執筆に役立てる。	福田
20	The trend of minimally invasive surgery for gastric cancer	我が国における悪性腫瘍死亡原因の上位を占める胃癌は、特に高齢者の罹患率が高い疾患であるため、より低侵襲な治療法が望まれる。本講義では、胃癌の機能温存手術について最新の知見を交え解説する。	柴尾
21	肺癌研究と臨床における最新の知見	原発性肺癌は、我が国をはじめとする先進国における悪性腫瘍死亡原因の第一位を占める予後不良な疾患である。従来、原発性肺癌に対する薬物療法は大きな効果が期待できなかったが、2000年以降の癌の根本原因である“ドライバー変異”の発見とこれを標的とした分子標的薬剤の開発によって、状況は大きく変わりつつある。本講義においては、肺癌研究とこれを基礎とした臨床の最新の知見につき、英語で概説する。	竹中
22	ポストポリオ症候群の病態と治療	ポリオ(急性灰白髄炎、小児麻痺)はポリオウイルスによって典型的には弛緩性運動麻痺をきたす疾患である。ポリオワクチンの導入によりわが国では新規のポリオ発症をほとんど見なくなったが、ポリオ罹患後数十年の症状安定期を経て、新たに筋力低下、易疲労性などの症状が出現するポストポリオ症候群が問題となっている。ポストポリオ症候群の病態と治療に関する最新の知見や課題について解説する。	松嶋
23	メカニカルストレスの増減と骨形成シグナルの調節機構	メカニカルストレスの増減によって、骨髄間葉系幹細胞から骨・血管・脂肪への分化過程が制御されている。荷重負荷後の海綿骨では皮質骨内面での前骨芽細胞でPTH受容体の発現が増加する。皮質骨ではwntシグナルの発現が増加する。PTH受容体を介したシグナルは骨芽細胞分化を促進し、脂肪細胞分化を抑制する。荷重負荷による骨形成促進にはスクレロスタチン発現の抑制が必須である。骨形成シグナルの分子機構について概説する。	酒井

回	項目	内容	担当教員
24	ウイルソン病の分子機構	ウイルソン病は遺伝性の銅代謝異常症である。本疾患は数少ない薬物による治療が可能な遺伝性代謝異常症である。この疾患の責任遺伝子は、ATP7Bであり、この遺伝子産物であるATP7Bが銅輸送体である。ATP7Bの肝細胞内局在に関しては未だ論争の渦中にある。本講義では肝細胞内での野生と変異ATP7Bの局在の検索とウイルソン病の病態についての検討を考えたい。	原田
25	炎症性皮膚疾患の病態と治療戦略	炎症性皮膚疾患の病態を理解することは皮膚免疫の機能を理解する上で非常に有用である。代表的なヘルパーT細胞であるTh1、Th2、Th17が炎症性皮膚疾患の病態にどのように関わっているのか、それらをターゲットとした治療戦略が現在どこまで発展しているのかについて解説する。皮膚における免疫細胞の動態についてより理解を深めるため、二光子顕微鏡を用いた生体内における免疫細胞の動きを観察し、炎症の場としての皮膚の役割と免疫細胞がいかにダイナミックな躍動で炎症を生じているのかについて紹介する。	澤田
26	前立腺癌治療の個別化	前立腺癌の治療は病期によってさまざまな治療方針が示されている。転移性前立腺癌の治療は、ホルモン療法がすべての症例に適応となっていたが、新規ホルモン薬、抗癌剤の登場により、ホルモン療法とこれらの薬剤の併用がすべての症例に推奨されている。しかし、癌の特性、薬物に対する反応性や有害事象はそれぞれの患者ごとに異なり、各患者に最適な個別化した治療が望まれる。そこで、治療の一般化と個別化について考える。	柏木
27	HFpEFの左室心筋特性について	収縮特性や拡張特性といった心筋特性そのものを扱うことができるPressure-Volume Loop 理論は、血行動態把握のための有力な方法論である。拡張末期圧容関係(EDPVR)を求めることで、心筋stiffnessを数理的に取り扱うことができる。心不全患者のEDPVRについて前負荷および後負荷増大に対する挙動を提示しながら、左室心筋特性について解説する。	片岡
28	限局性肺病変のCT診断	画像診断技術の進歩に伴って、小さな肺結節が検出される頻度が高くなっている。肺癌の初期変化は肺結節として捉えられることが多いが、肺結節の良悪鑑別は必ずしも容易ではない。また、胸部CTが施行される機会が増えたことで、小型の肺腺癌が多く発見されるようになった。肺腺癌におけるCT上のすりガラス影の割合は予後とよく相関し、腫瘍径とすりガラス影の割合は限局性肺病変のマネージメントの指標として重要である。本講義では限局性肺病変診断におけるCTの役割や質的診断に役立つ所見、コンピュータ支援診断法について解説する。	青木

回	項目	内容	担当教員
29	呼吸器疾患における細菌叢	近年の下気道や腸管の細菌叢の変化と様々な呼吸器疾患との病態との関連性が肺炎、抗酸菌感染症、気管支喘息、COPDなどの様々な呼吸器疾患で指摘されており、我々の研究室を含めた新しい知見が集積されている。一部では腸管細菌叢の改変することにより呼吸器疾患の治療的な有用性が報告されている。また、上気道及び下気道は密接に関連しており、喘息などでは近年特に重要性が指摘されており、上気道、下気道の細菌叢の影響についても新しい知見が集積されている。これらの知見について包括的に解説する。	矢寺
30	作業関連運動器疾患の人間工学対策	災害性腰痛や上肢障害など、様々な職場で共通して課題となる作業関連運動器疾患(WMSDs)に関する人間工学対策を学ぶ。近年、医療従事者のWMSDsが注目されるようになっており、内視鏡医療労働を対象とした人間工学対策の最新動向を概説する。	榎原
31	悪性脳腫瘍に対する光線力学療法・診断	悪性脳腫瘍の性質で重要なのは高い浸潤能を有することである。悪性脳腫瘍の摘出の際には、境界不明瞭な脳腫瘍を安全にどこまで摘出できるかが重要となる。近年、悪性脳腫瘍を術中に可視化できる手法が開発(蛍光診断)がされているが、その中心となるのが光感受性物質である。本講義では、悪性脳腫瘍の術中蛍光診断で使用されている5-アミノレブリン酸を中心にその多機能性について解説する。	山本
32	全身性疾患と眼疾患	全身性疾患と眼疾患とのかかわりは大きく、眼症状から全身性疾患の診断が得られることもまれではない。眼疾患を理解することで、全身性疾患について深く考察することができる。この講義では糖尿病網膜症、網膜色素変性などの遺伝性眼疾患と全身性疾患との関連、色素失調症を例に挙げ、主に網膜の構造・機能の解説と全身性疾患を生じる機序を解説する。	近藤
33	騒音性難聴の病態	音響暴露による内耳障害には急性と慢性があり、いずれも蝸牛有毛細胞の障害によって生じる。強大音に短時間暴露されて起るものは急性音響外傷と呼ばれ、比較的大きな音に長期間曝されて起るものが騒音性難聴である。後者の典型例では両側性のC5-dip型オーディオグラムを呈し、進行すると8000 Hzと2000 Hzの聴力閾値も悪化する。回復は困難であり、騒音環境の改善や騒音の遮断などの予防対策が必要である。	堀

回	項目	内容	担当教員
34	痛みの発生機序と鎮痛薬の薬理作用	急性疼痛と慢性疼痛の発生機序の基礎と、既存の鎮痛薬の作用機序を解説する。慢性疼痛のうち、特に神経障害性疼痛は治療抵抗性を示すことが多く、有効な鎮痛薬・鎮痛法の開発が望まれている。疼痛発生機序に関与するイオンチャネルや受容体をターゲットとして、これまで多くの新たな鎮痛薬開発が試みられてきた。更に、痛みと遺伝子の関連についても様々な報告がなされ、疼痛治療のターゲットとなっている。これら新たな鎮痛薬・鎮痛法開発の知見について解説する。	堀下
35	婦人科悪性腫瘍の臨床病理学的解析	子宮頸癌の組織発生について解析し、その治療戦略また予防について解説する。子宮頸癌は子宮頸部異型成を前癌病変とすることが知られているが、その子宮頸部異型成の発生にはヒトパピローマウイルス(HPV)が関与していることが広く知られている。中でも16型、18型がhigh risk HPVである。このHPVに対するワクチンにより子宮頸癌の発生を抑える試みが欧米諸国でなされており、日本の現状を加えて解説する。	吉野
36	小児がんとゲノム医療	小児がんの治療成績は目覚ましく向上している一方で、治療後に生じる晩期合併症は小児がん診療において大きな課題である。がん領域ではゲノム医療の活用が進んでおり、小児がんにおいてもゲノム医療を応用した層別化治療の開発や治療毒性の低い分子標的薬を用いることで「より良く治す」ことが目指されている。小児がん領域におけるゲノム医療の現状を紹介し、小児がん診療の最新知見を解説する。	深野
37	化学物質による臓器毒性とその発症機序	法改正により化学物質の管理は法令準拠型から自律的な管理に移行した。その第一歩が、SDS(安全データシート)に記載されている有害性情報を理解することにある。本講義では毒性学の基礎知識、および有害性情報の項目の一つである特定標的臓器毒性(肝毒性、腎毒性、皮膚毒性、神経毒性など)について、各々の毒性を發揮する代表的な化学物質とその毒性機序を症例報告や最新の知見と合わせて概説し、毒性学についての理解を深める。	上野
38	敗血症性ショックの病態と診断・治療における最近の進歩	世界中の死者の5人に一人は「敗血症」で死亡しており、その死者数は癌による死者数を上回るといわれている。敗血症の病態は感染に対する急性期の過剰な免疫反応とその後の免疫寛容の二つのフェーズに分けられる。基礎研究の歴史から最新の研究、診療ガイドラインなどについて解説し早期診断と治療の可能性に関して解説する。	尾崎

回	項目	内容	担当教員
39-50	後日公表	<p>後日公表</p> <p>国際遠隔講義 (IOEH; International Occupational and Environmental Health course) では、9～12月の毎週火曜日14:20-16:00に、本学、国立台湾大学、ブルネイ大学、インドネシア大学、コンケン大学(タイ)、シンガポール大学の教員、および、ゲストスピーカーが、産業医学に関する講義を行っている。講師と講演タイトル、内容について、後日公表予定である。</p>	国際センター長

上記の中から、所属講座等の教員の指導のもと、9コマを選択し受講すること。

科目名			<b>疾病治療論</b>		
科目責任者		松浦 祐介	(広域・発達看護学 教授)		
担当者		園本 格士朗	(成人・老年看護学 教授)		
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>内科的疾患、外科的疾患について病因、症状、病態生理、診断治療を理解し、病態の理解にもとづいて治療の意図と目標を理解できることを目標とする。さらに、治療における可能な選択枝、適応と選択基準、治療の病態に与える影響を理解することにより、看護職に求められる役割を自分で考え、看護に応用できるような知識を習得することを目標とする。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) それぞれの内科的疾患、外科的疾患の症状、病態を説明できる。</li> <li>2) 各疾患の治療における可能な選択枝と適応、選択基準を説明できる。</li> <li>3) 治療が病態に与える影響にもとづき治療の意図と目標を説明できる。</li> <li>4) 病態と治療の理解にもとづき看護職に求められる役割、今後の展望について説明できる。</li> </ol>					
● 評価方法		発表 40%、討論 20%、レポート 40%により、総合的に評価する。			
● 参考文献		講義の中で必要に応じて紹介する。			

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	外科系看護学総論	外科系疾患における看護の目標と役割	松浦
2	手術室	手術室・回復室・ICU, 輸血	松浦
3	麻酔・疼痛管理	麻酔・疼痛管理と看護技術	松浦
4	消化器外科	消化器外科領域における看護の実際	松浦
5	胸部外科	胸部外科領域における看護の実際	松浦
6	産婦人科の手術	産婦人科手術における看護の実際	松浦
7	泌尿器科の手術	泌尿器科手術における看護の実際	松浦
8	開腹術後管理	開腹術後管理における看護支援	松浦
9	内科系看護学総論	内科系疾患における看護の目標と役割	園本
10	呼吸器疾患	呼吸器疾患の治療と看護	園本
11	循環器疾患	循環器疾患の治療と看護	園本
12	血液疾患	血液疾患の治療と看護	園本
13	免疫アレルギー疾患	免疫アレルギー疾患の治療と看護	園本
14	消化器疾患	消化器疾患の治療と看護	園本
15	代謝栄養性疾患	代謝栄養性疾患の治療と看護	園本

科目名		臨床看護研究	
科目責任者		阿南 あゆみ (成人老年看護学 教授)	
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>臨床実践における疑問を、看護研究に発展させることができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床実践における「日頃の疑問」を見いだすことができる。</li> <li>2) 「日頃の疑問」を看護研究に導く、基本的プロセスを理解することができる。</li> <li>3) 看護研究を臨床実践力の向上に発展させることができる。</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 20%、課題レポート 20%		
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	「日頃の疑問」(1)	臨床における「日頃の疑問とは」について考える	阿南
2	「日頃の疑問」(2)	「日頃の疑問」に関するGW(1)	阿南
3	「日頃の疑問」(3)	「日頃の疑問」に関するGW(2)	阿南
4	事例研究(1)	事例研究の方法を理解する	阿南
5	事例研究(2)	事例研究の先行研究について批判的分析を行なう(1)	阿南
6	事例研究(3)	事例研究の先行研究について批判的分析を行なう(2)	阿南
7	業務改善(1)	業務改善と看護研究を理解する	阿南
8	業務改善(2)	業務改善の先行研究について批判的分析を行なう(1)	阿南
9	業務改善(3)	業務改善の先行研究について批判的分析を行なう(2)	阿南
10	研究方法立案(1)	先行研究の分析により、自身の研究テーマや研究方法を考案する	阿南
11	研究方法立案(2)	先行研究の分析により、自身の研究テーマや研究方法を考案する	阿南
12	研究計画立案(1)	研究計画書の立案方法を理解する	阿南
13	研究計画立案(2)	「日頃の疑問」に関する研究計画を立案する(1)	阿南
14	研究計画立案(3)	「日頃の疑問」に関する研究計画を立案する(2)	阿南
15	まとめ	論文作成の方法を理解し、自身の修士論文作成へ発展させる	阿南

科目名		<b>看護教育論</b>	
科目責任者 中村 恵美		(広域・発達看護学 准教授)	
開講時期： 1年次後学期	単位数： 2 単位	時間数：	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>看護教育や人材育成の分野において、系統的な学修支援活動を実践するために必要な基礎的知識を修得する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護学教育・人材育成に関連する学習理論をもとに、自身の教育実践への応用可能性を検討できる</li> <li>2) 看護教育制度の成り立ちを理解し、看護学教育の現状と課題を考えることができる</li> <li>3) 看護学教育課程の編成とマネジメントの方法を理解できる</li> <li>4) 看護基礎教育/継続教育における授業/研修設計を方法が理解できる</li> <li>5) 看護教育学・人材育成に関する研究手法を理解し、自身の教育実践における研究的課題を見出すことができる</li> <li>6) これまでの教育実践を省察し、看護学教育/人材育成実践者としての今後の課題を明確にできる</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 40%		
● 参考文献	<p>課題図書① J. Dewey 著/市村尚久(訳): 経験と学習. 講談社学術文庫</p> <p>課題図書② J. Lave &amp; E. Wenger 著/佐伯胖(訳): 状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加. 産業図書</p> <p>使用テキスト① 杉森みど里, 舟島なをみ(編): 看護教育学. 医学書院</p> <p>使用テキスト② 舟島なをみ(監): 看護学教育における授業展開. 医学書院</p> <p>使用テキスト③ 佐藤みつこ, 他: 看護教育における授業設計. 医学書院</p> <p>使用テキスト④ 舟島なをみ(監): 院内教育プログラムの立案・実施・評価. 医学書院</p> <p>※ 課題図書①以外のテキストは貸出可能です</p> <p>その他の参考図書は適宜紹介します</p>		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス I. 看護教育学とは	ガイダンス 1. 看護教育学とは 2. 看護学教育を担う者の役割と求められる資質 3. 看護学教育における倫理	中村
2 3 4 5 6	II. 看護学教育・人材育成に関する学習理論	1. 人が「学ぶ」ことの意味と教育の役割 2. 心理学に基づく主な学習理論 3. 経験主義に基づく学習理論 4. 成人教育に関する主な理論 5. 組織学習に関する主な理論 6. 構成主義/社会的構成主義に基づく学習論 <b>【演習 I-1】学習理論の批判的検討</b> ・課題図書①「経験と教育」(J. Dewey) <b>【演習 II-2】学習理論の応用可能性の検討①</b> ・成人教育学に関する理論を自由に選択 <b>【演習 II-3】学習理論の応用可能性の検討②</b> ・課題図書②「状況に埋め込まれた学習; 正統的周辺参加」(J. Lave & E. Wenger)	中村
7	III. 看護教育制度	1. 看護教育制度の成り立ち 2. 看護基礎教育の基盤となる法と関係法規 3. 看護教育制度の沿革 4. 看護学教育の質保障	中村
8 9	IV. 看護学教育課程の編成とマネジメント	1. 教育課程編成の基本 2. カリキュラム編成のながれ <b>【演習 IV】看護大学の設置とカリキュラム編成の実際</b>	中村
10 11 12 13	IV. 看護基礎教育・看護継続教育における授業/研修設計	1. 授業・研修設計の基本 2. 学習(学修)目標の設定 3. 学習(学修)評価と教育効果測定 4. 授業方略と学習活動 5. 科目編成・研修プログラム作成のながれ 6. 学習指導案・研修計画書の作成のながれ <b>【演習 V-1】科目構築/研修プログラム作成</b> <b>【演習 V-2】学習指導案/研修計画案作成</b>	中村
14	V. 看護教育/人材育成領域における研究	1. 心理・教育領域研究における準実験デザイン <b>【演習 VI】看護教育学・人材育成に関連した論文のクリティーク</b>	中村
15	VI. 看護教育/人材育成実践者としての省察と今後の課題	1. 看護卒後教育と看護継続教育 2. 職業的アイデンティティとキャリア・マネジメント 3. 生涯学習と自己主導型学習 4. 省察的実践: クリティカルシンキングとリフレクション <b>【演習 VII】看護学教育/人材育成実践者としての省察と今度の課題</b>	中村

\* 演習の内容や方法は相談の上で決定します

科目名		看護研究方法論(応用)	
科目責任者	黒坂 知絵	(人間情報科学 准教授)	
担当者	岡田 亮	(人間情報科学 准教授)	
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位
時間数:	90分×	回数:	15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>量的・質的研究のプロセスと文献検索、研究論文の批判的評価の方法を学ぶ。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 質的研究のプロセスを説明できる。</li> <li>2) 量的研究のプロセスを説明できる。</li> <li>3) 関心領域の文献を系統的に検索できる。</li> <li>4) 研究論文(質的研究)の批判的評価ができる。</li> <li>5) 研究論文(量的研究)の批判的評価ができる。</li> </ol>			
● 評価方法	発表 40%、討論 20%、レポート 40%により、総合的に評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	看護研究の概要	様々な看護研究の方法を概観する	黒坂・岡田
2	質的研究のプロセス(1)	質的研究のプロセスについて理解する	黒坂
3	質的研究のプロセス(2)	質的研究のプロセスについて理解する	黒坂
4	量的研究のプロセス(1)	量的研究のプロセスについて理解する	岡田
5	量的研究のプロセス(2)	量的研究のプロセスについて理解する	岡田
6	文献検索の実際(1)	関心領域の文献検索結果を発表する	黒坂
7	文献検索の実際(2)	関心領域の文献検索結果を発表する	黒坂
8	質的研究の批判的評価(1)	研究論文(質的研究)を批判的に評価する	黒坂
9	質的研究の批判的評価(2)	研究論文(質的研究)を批判的に評価する	黒坂
10	質的研究の批判的評価(3)	研究論文(質的研究)を批判的に評価する	黒坂
11	質的研究の批判的評価(4)	研究論文(質的研究)を批判的に評価する	黒坂
12	量的研究の批判的評価(1)	研究論文(量的研究)を批判的に評価する	岡田
13	量的研究の批判的評価(2)	研究論文(量的研究)を批判的に評価する	岡田
14	量的研究の批判的評価(3)	研究論文(量的研究)を批判的に評価する	岡田
15	量的研究の批判的評価(4)	研究論文(量的研究)を批判的に評価する	岡田

科目名		ヘルスリテラシー特論	
科目責任者		黒坂 知絵 (人間情報科学 准教授)	
開講時期:	1年次後学期	単位数:	1 単位
		時間数:	90分× 8 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>近年、医療や保健、教育等の分野で注目されてきている「ヘルスリテラシー」に関して、その定義や要素分類、評価法、そしてヘルスプロモーションや健康教育との関係性を理解し、人々が良好な健康状態の維持増進のために必要となる情報やサービスにアクセスし、理解し、評価し、活用できるように支援していく方法等について探究する能力を養う。</p> <p>1) ヘルスリテラシーの定義とその要素や評価法について説明できる。  2) ヘルスリテラシーとヘルスプロモーション、健康教育との関係について説明できる。  3) 医療や保健、教育の現場等でヘルスリテラシーを高める方法を提案できる。</p>			
● 評価方法	課題レポート 60%、討議への参加度 20%、討議や質問時の発言内容等 20% について得点化し、100点中60点以上を合格とする。		
● 参考文献	「ヘルスリテラシー 健康教育の新しいキーワード」大修館書店(2016年)		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ヘルスリテラシーとは	ヘルスリテラシーの定義、ヘルスリテラシーの理論や要因を理解する	黒坂
2	ヘルスリテラシーの歴史と広がり	ヘルスリテラシーが誕生するまで、現在と概念の拡張について理解する	黒坂
3	ヘルスリテラシーの評価法	ヘルスリテラシーに関する様々な評価法について理解する	黒坂
4	ヘルスリテラシーと健康教育	ヘルスリテラシーとヘルスプロモーション、健康教育との関係について理解する	黒坂
5	ヘルスリテラシーと情報	ヘルスリテラシーと情報との関連やアプローチ法、言語の課題について理解する	黒坂
6	学校教育や職場におけるヘルスリテラシー	学校や職場での位置づけや取り組みを学び、課題について討議する	黒坂
7	地域や医療機関におけるヘルスリテラシー	地域での取り組みやプライマリケアとの関連性を学び、今後のありかたを討議する	黒坂
8	ヘルスリテラシーの今後	これからの社会におけるヘルスリテラシーの方向性について討議する	黒坂

科目名			<b>地域包括ケアシステム特論</b>		
科目責任者			仲野 宏子 (産業・地域看護学 准教授)		
開講時期:	1年次後学期	単位数:	1 単位	時間数:	90分× 8 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p style="padding-left: 40px;">我が国の保健医療福祉に関連する諸制度および社会資源について理解し、地域包括ケアシステム実現に向けての方策を探求する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域包括ケアの概念が説明できる。</li> <li>2) 地域包括ケアシステム推進の背景と変遷が説明できる。</li> <li>3) 我が国の保健医療福祉制度を理解し、諸外国の制度と比較しながら地域包括ケアシステムの現状と課題を明確にできる。</li> <li>4) 地域包括ケアシステム実現に向けた方策について提言できる。</li> </ol>					
● 評価方法	レポート 60%、プレゼンテーション 20%、ディスカッション内容 20%を総合して評価する。				
● 参考文献	別途指示				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス 我が国における保健医療 福祉制度上の課題(1)	授業の進め方、プレゼンテーションに関する アナウンス	仲野
2	ガイダンス 我が国における保健医療 福祉制度上の課題(2)	保健医療福祉制度の理解・現状把握、課題 の考察	仲野
3	ガイダンス 我が国における保健医療 福祉制度上の課題(3)	プレゼンテーション・ディスカッション	仲野
4	我が国における地域包括 ケアシステムの現状と課題 (1)	我が国における地域包括ケアシステムの現状 と課題について考察	仲野
5	我が国における地域包括 ケアシステムの現状と課題 (2)	我が国における地域包括ケアシステムの現状 と課題について考察	仲野
6	我が国における地域包括 ケアシステムの現状と課題 (3)	我が国における地域包括ケアシステムの現状 と課題について諸外国と比較して考察	仲野
7	我が国における地域包括 ケアシステムの現状と課題 (4)	我が国における地域包括ケアシステムの現状 と課題について諸外国と比較して考察	仲野
8	地域包括ケアシステム構築 への方策	地域包括ケアシステム構築の方策を自身の 看護活動を踏まえて提言する	仲野

科目名		国際保健学	
科目責任者 (看護学専攻委員長)			
開講時期:	1年次後学期	単位数:	1 単位
		時間数:	90分× 8 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>国際保健に関する日本の状況と役割について理解する。国際的な看護の状況について理解し、我が国が果たすべき役割について考察する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際保健の意義、目的を理解する。</li> <li>2) 日本における外国人支援の状況と問題について理解する。</li> <li>3) 日本における外国人看護師の状況と問題について理解する。</li> <li>4) 国際的な看護の状況の理解を通じて、日本の看護について考察する。</li> <li>5) 看護領域において、我が国が果たすべき役割について考察する。</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション内容 40%、討議への参加度 40%、課題レポート 20%		
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	国際保健の意義、目的	国際保健の意義と目的について理解する。	看護学専攻委員長
2	日本における外国人支援	難民を中心として、日本における外国人支援の状況と問題点について理解する。	看護学専攻委員長
3	日本における外国人看護師(1)	日本における外国人看護師の状況と問題について理解する。	看護学専攻委員長
4	日本における外国人看護師(2)	日本における外国人看護師のあり方についてのグループディスカッション。	看護学専攻委員長
5	日本の看護と諸外国の看護(1)	国際的な看護の状況の理解を通じて、日本の看護について考察する。	看護学専攻委員長
6	日本の看護と諸外国の看護(2)	国際的な看護の状況の理解を通じて、日本の看護について考察する。	看護学専攻委員長
7	日本の看護と諸外国の看護(3)	国際的な看護の状況の理解を通じて、日本の看護について考察する。	看護学専攻委員長
8	まとめ	看護領域において、我が国が果たすべき役割について考察する。	看護学専攻委員長

科目名		健康支援・高齢者支援看護学特論	
科目責任者	永松 有紀	(成人・老年看護学 教授)	
担当者	阿南 あゆみ	(成人・老年看護学 教授)	
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>様々な健康レベルにある健康障害を持つ成人期・老年期にある人々とその家族の理解に活用できる主要な概念や看護実践に活用できる諸理論を学び、それらの概念や理論の看護の場での適用について探究する能力を養う。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康障害を持つ成人期にある人々とその家族の理解と看護実践の基盤となる概念および理論について説明できる</li> <li>2) 老年期にある人々とその家族の理解と看護実践の基盤となる概念および理論について説明できる</li> <li>3) 看護の場では会う現象や看護実践・研究における概念および理論の活用について考察できる</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 20%、課題レポート 20%		
● 参考文献	必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 成人期にある人々の生活と健康課題	成人期にある人の健康課題、施策等の社会背景の理解	永松
2	老年期にある人々の生活と健康課題	高齢者の生活や健康課題に関係する法、施策等の社会背景の理解	永松
3	成人期にある人々の生活と健康への支援 1	成人看護領域で用いられる概念、理論に関する知見を広め、自己の研究テーマとの関連を考える	永松
4	成人期にある人々の生活と健康への支援 2	成人看護領域で用いられる概念、理論に関する知見を広め、自己の研究テーマとの関連を考える	阿南
5	老年期にある人々の生活と健康への支援 1	老年看護領域で用いられる概念、理論に関する知見を広め、自己の研究テーマとの関連を考える	永松
6	老年期にある人々の生活と健康への支援 2	老年看護領域で用いられる概念、理論に関する知見を広め、自己の研究テーマとの関連を考える	永松
7	健康レベルに対応した看護	急性期看護における主要な概念と理論の理解	永松
8	健康レベルに対応した看護	慢性期における主要な概念と理論	阿南
9	健康レベルに対応した看護	セルフマネジメント支援	阿南
10	健康障害をもつ人への看護	がん看護における主要な概念と理論	永松
11	健康障害を持つ成人期にある人と家族への看護実践	看護実践・研究における概念および理論の活用 看護実践事例への適用の検討	永松
12	健康障害を持つ成人期にある人と家族への看護実践	看護実践・研究における概念および理論の活用 看護実践事例への適用の検討	永松
13	健康障害を持つ成人期・老年期にある人と家族への看護実践	看護実践・研究における概念および理論の活用 看護実践事例発表・検討	永松
14	健康障害を持つ成人期・老年期にある人と家族への看護実践	看護実践・研究における概念および理論の活用 看護実践事例発表・検討	永松
15	まとめ	科目で学んだ成人・老年看護領域で用いられる概念、理論を振り返り、自己の研究テーマとの関連付けを行う	永松

科目名		健康支援・高齢者支援看護学演習 I	
科目責任者	阿南 あゆみ	(成人・老年看護学 教授)	
担当者	園本 格士朗	(成人・老年看護学 教授)	
担当者	永松 有紀	(成人・老年看護学 准教授)	
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>健康支援・高齢者支援看護学特論で学習した概念・理論を活用し、文献検索により興味・関心がある領域の看護研究の動向について理解する。さらに文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッションをとおして、各自の研究テーマについて探求することができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 関心領域に基づいて慢性期看護、急性期看護、老年看護、内科学に関する文献を検索できる。</li> <li>2) 近年の慢性期看護、急性期看護、老年看護に関する動向や課題について説明することができる。</li> <li>3) 論文講読および精読をし、健康支援・高齢者支援看護学領域の課題を明確にすることができる。</li> <li>4) プレゼンテーションの効果的な方法を身につけることができる。</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 20%、課題レポート 20%		
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	ゼミの進め方、プレゼンテーションに関するアナウンス	阿南 永松
2～5	慢性期看護の近年の研究トピック	慢性期看護の近年の動向 文献紹介、講読	阿南 園本
6～8	老年看護の近年の研究トピック	老年看護の近年の動向 文献紹介、講読	園本 永松
9～14	看護基礎教育 継続教育の研究と実践	学部学生への講義・演習・実習指導 臨床実践における看護の実証と開発	阿南 永松
15	まとめ	本科目のまとめ	阿南 永松

科目名		健康支援・高齢者支援看護学演習Ⅱ	
科目責任者	阿南 あゆみ	(成人・老年看護学 教授)	
担当者	園本 格士朗	(成人・老年看護学 教授)	
担当者	永松 有紀	(成人・老年看護学 准教授)	
開講時期:	2年次通年	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>健康支援・高齢者支援看護学特論、健康支援・高齢者支援看護学演習Ⅰでの学びを踏まえ、自己の研究課題を明確にすることができる。また自己の研究を遂行するための知識、技術、態度を養い、研究の概念枠組みの構築や研究方法を明確にすることができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究課題に関連する文献検討を行うことができる。</li> <li>2) 研究の目的を論述し、研究方法を説明することができる。</li> <li>3) 研究計画や倫理申請など、一連の看護研究のプロセスを計画的に遂行することができる。</li> <li>4) 研究者としての基本的態度を身につける。</li> </ol>			
● 評価方法	プレゼンテーション内容 60%、討議への参加度 20%、課題レポート 20%		
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンス	阿南 永松
2	研究課題の発表	研究課題についてのプレゼンテーション	阿南 永松 園本
3～5	研究課題に関連する 文献精読	研究課題に関連する文献を精読する	阿南 永松
6～8	研究方法の検討	文献検討の結果と研究方法に関する プレゼンテーション、ディスカッション	阿南 永松 園本
9～14	研究・教育の実践	学部学生への講義・演習・実習指導 臨床実践における看護の実証と開発	阿南 永松
15	まとめ	本科目のまとめ	阿南 永松

科目名			生活支援看護学特論		
科目責任者	岡田 なぎさ	(基礎看護学 准教授)			
担当者	中富 満城	(人間情報科学 准教授)			
担当者	岡田 亮	(人間情報科学 准教授)			
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>あらゆる健康レベルにある人々の生活の質を高めるケアを提供するために、看護技術の科学的根拠を探求する方法が理解でき、生活支援のあり方を創造的・先駆的に探究して知識を蓄え、看護実践に応用できるようにする。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護実践と看護技術の関連について説明できる。</li> <li>2) 看護技術の概念(構造、実践との関連等)を説明できる。</li> <li>3) 看護技術の科学性を追求する方法を説明できる。</li> <li>4) 看護技術と人間工学の関連を説明できる。</li> <li>5) ヘルスアセスメントと生活支援の関連を説明できる。</li> <li>6) 日常生活行動と健康との関わりについて説明できる。</li> <li>7) 看護実践の裏付けとなる看護理論を読み解き、実践活用を検討する。</li> <li>8) 看護技術開発研究の動向を説明できる。</li> </ol>					
● 評価方法	討議への参加 20%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 40%				
● 参考文献	適宜紹介をする。				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	看護実践と看護技術との関連	看護実践とは、看護実践の構造、看護技術との関連	岡田(な)
2・3	看護技術と生活支援との関連	看護技術と生活支援との関連を整理する	岡田(な)
4・5	看護技術とマネジメント	看護技術をマネジメントできる能力を育成するための基礎知識と活用方法を追及する	岡田(な)
6～8	看護技術とボディメカニクス	看護技術を人間工学の視点から捉え、生活支援との関連を追求する	中富岡田(亮)
9・10	看護理論と看護実践の関連	看護実践と看護理論の関連を探求し、実践への活用を検討する	岡田(な)
11・12	看護理論と看護実践の探求	在宅ケアにおける看護実践と看護理論の関連を探求し、実践への活用を検討する	岡田(な)
13	在宅ケア技術と看護理論	在宅ケア技術の基盤となる看護理論を検討し、実践に活用できる	岡田(な)
14	看護技術開発研究の動向	看護技術開発に関連する文献の精読	岡田(な)
15	学習のまとめ 発表	本科目における学びを整理し発表する	岡田(な)

科目名			生活支援看護学演習 I		
科目責任者	岡田 なぎさ	(基礎看護学 准教授)			
担当者	中富 満城	(人間情報科学 准教授)			
担当者	岡田 亮	(人間情報科学 准教授)			
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>複雑な背景、多様なニーズをもつ対象者の健康問題を生活を支援することにより改善するために、創造的・先駆的に探究するための基本的知識を講義・演習を通して得る。関心領域の国内外の看護学および関連領域の文献を検索し、研究課題の背景や意義、研究方法等を明らかにする。さらにヘルスアセスメントの知識・技術を学び、生活支援のための看護判断の能力を高める。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護実践の場面を取り上げ、看護技術学の視点から解釈ができる。</li> <li>2) 看護技術の科学性を探求することができる。</li> <li>3) 健康と生活支援のあり方を検討することができる。</li> <li>4) ヘルスアセスメントの結果を生活支援と関連づけ、生活支援の方法を説明できる。</li> <li>5) 自己の関心領域の文献を精読でき、関心領域を説明できる。</li> </ol>					
● 評価方法	討議への参加度 20% プレゼンテーション 40% 課題レポート 40%				
● 参考文献	適宜紹介する。				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1～3	看護技術のエビデンスの検討	看護技術の科学的エビデンスを検討する	岡田(な)
4	健康と日常生活動作時の関連	関心のある日常生活動作時をとりあげ、それに関連した文献を精読する	岡田(な)
5	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの意義と方法を深める	岡田(な)
6・7	在宅におけるヘルスアセスメント	在宅におけるヘルスアセスメントについて検討する	岡田(な)
8～12	ヘルスアセスメントの実際	ヘルスアセスメント能力を高め、日常生活援助について理解を深める	岡田(な)
13～15	自己の研究課題に関連した文献紹介	自己の関心をより明確にするために、関連領域の文献を精読し、まとめる	中富、岡田(亮)

科目名			生活支援看護学演習Ⅱ		
科目責任者	岡田 なぎさ	(基礎看護学 准教授)			
担当者	中富 満城	(人間情報科学 准教授)			
担当者	岡田 亮	(人間情報科学 准教授)			
開講時期:	2年次通年	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>生活支援看護学領域における研究課題を明らかにし、研究の方向性や方法、研究倫理、データ解析法などに関連する議論を行う。各人の研究課題との関連を明らかにするとともに、研究の方法を学ぶ。その都度議論を行い、科学的なものの考え方、リサーチマインドを学ぶとともにプレゼンテーションを通してより高度なプレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活支援看護学領域の研究課題に関連した文献をクリティークし、研究課題を説明できる。</li> <li>2) 生活支援看護学領域の研究課題に即した研究方法を説明できる。</li> <li>3) 生活支援看護学領域の研究課題に即した倫理的課題を明らかにできる。</li> <li>4) 生活支援領域の研究課題に即した結果のまとめ方について議論することができる。</li> <li>5) 生活支援看護学領域の研究課題に即した結果の分析方法を議論することができる。</li> <li>6) 生活支援看護学領域の研究課題に即した考察について議論することができる。</li> <li>7) 一連の学習内容をプレゼンテーションができる。</li> </ol>					
● 評価方法	討議への参加度 20% プレゼンテーション 40% 課題レポート 40%				
● 参考文献	適宜紹介する。				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1・2	看護実践における研究課題、事例分析	看護実践における研究課題について自己の事例をまとめ、発表する	岡田(な)
3・4	文献検討とクリティーク	生活支援看護学関連文献のクリティークを行い、意見交換をする	岡田(な)
5・6	研究課題に関連した研究方法	生活支援看護学領域に関連した研究課題をもとに実験的研究手法について検討する	中富、 岡田(亮)
7・8	生活支援看護学領域の文献研究に関する中間発表	今までのクリティークの結果をまとめ、その成果を発表する	岡田(な)
9	生活支援領域の研究課題に関連した倫理的課題の検討	倫理申請において生活支援看護学領域の特性を踏まえ、倫理的課題を明らかにし、議論する	岡田(な)
10・11	生活支援看護学領域の研究課題に関連した結果の分析	生活支援看護学領域に関連する研究結果のまとめ方等について先行研究を取り上げ検討する	岡田(な)
12	生活支援看護学領域の研究課題に関連した結果の考察	生活支援看護学領域に関連する考察の方法等について先行研究を取り上げ検討する	岡田(な)
13	文献検討のまとめ	文献研究の成果を、自己の研究に活用できるようにまとめることができる	岡田(な)
14・15	プレゼンテーション技法の検討と発表	プレゼンテーション技法の検討を行い、その手法を活用し報告できる	岡田(な)

科目名			母子支援看護学特論		
科目責任者	森本 眞寿代	(広域・発達看護学 教授)			
担当者	松浦 祐介	(広域・発達看護学 教授)			
	中村 恵美	(広域・発達看護学 准教授)			
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>母性・小児およびその家族への健康支援に必要な諸概念や理論、実践方法を科学的に探究し、研究に必要な基礎的能力を養うことができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <p>1) 母子看護の歴史や変遷および理論、女性のライフサイクル全般にわたる支援方法、周産期看護における母子と家族へのエビデンスのある支援方法を探求し、現状や課題について学ぶことができる。</p> <p>2) 子どもや家族を捉えるための成長・発達、セルフケア、家族関係・家族発達等の諸概念や理論を学び、子どもや家族への支援方法を探求し現状や課題について学ぶことができる。</p>					
● 評価方法	発表 40%、討論 20%、レポート 40%により、総合的に評価する。				
● 参考文献	必要に応じて紹介する。				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	授業計画および内容	森本
2	母子看護学の概説	母子看護学の歴史と概要	森本
3	母子看護学の対象	母子看護学の対象と母子を取り巻く社会	森本
4	母子看護学の理論と概念(1)	リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー	森本
5	母子看護学の理論と概念(2)	愛着理論、母子相互作用、 危機・喪失理論、父親・家族の発達理論	森本
6	母子看護学の理論と概念(3)	子ども観の変遷と子どもの権利	中村
7	母子看護学の理論と概念(4)	子どもの成長・発達と主な理論	中村
8	ライフサイクル各期の健康支援に関する文献講読および解説(1)	小児期の子どもと家族を対象とした文献講読(1)	中村
9	ライフサイクル各期の健康支援に関する文献講読および解説(2)	小児期の子どもと家族を対象とした文献講読(2)	中村
10	ライフサイクル各期の健康支援に関する文献講読および解説(3)	成熟期を対象とした文献講読	松浦
11	ライフサイクル各期の健康支援に関する文献講読および解説(4)	更年期を対象とした文献講読	松浦
12	ライフサイクル各期の健康支援に関する文献講読および解説(5)	老年期を対象とした文献講読	松浦
13	母子看護学領域のEBM探究(1)	Evidence Based Medicine/Nursingの手法(1)	松浦
14	母子看護学領域のEBM探究(2)	Evidence Based Medicine/Nursingの手法(2)	森本
15	まとめ	自己の研究課題の検討とまとめ	森本

科目名		母子支援看護学演習 I	
科目責任者	森本 眞寿代	(広域・発達看護学 教授)	
担当者	松浦 祐介	(広域・発達看護学 教授)	
	中村 恵美	(広域・発達看護学 准教授)	
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>母子支援看護学特論で学んだ諸概念や理論を活用し、各自が関心ある領域の先行研究を選出し批判的吟味を行い議論する。母子支援看護学演習 IIにつながるための自己の研究課題を追求し洗練させる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 周産期医療ケアにおける現状や課題、最新知識・技術を学び、エビデンスを獲得する方法を習得することができる。</li> <li>2) 子どもの成長・発達、健康障害を持つ子どもとその家族への支援・技術を学び、高度な看護実践を開発する方法を習得することができる。</li> <li>3) 文献講読および精読をし、各自の研究テーマを探求することができる。</li> </ol>			
● 評価方法	発表 40%、討論 20%、レポート 40%により、総合的に評価する。		
● 参考文献	必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	演習計画および内容説明	森本
2～5	文献講読	小児看護学領域の文献講読	中村
6～9	文献講読	婦人科疾患領域の文献講読	松浦
10～13	文献講読	母性看護学領域の文献講読	森本
14・15	まとめ	今後の研究への発展	森本

科目名		母子支援看護学演習Ⅱ	
科目責任者	森本 眞寿代	(広域・発達看護学 教授)	
担当者	松浦 祐介	(広域・発達看護学 教授)	
	中村 恵美	(広域・発達看護学 准教授)	
開講時期:	2年次通年	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>先行研究の調査や現在の医療現場による課題を明確化し、母子支援看護学における自己の看護の探求課題を明確にする。また、研究を遂行するための概念枠組みの構築や研究方法を明確にすることができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子支援看護学領域の研究課題に関連した文献をクリティークできる。</li> <li>2) 母子支援看護学領域の研究課題について、研究方法を説明できる。</li> <li>3) 母子支援看護学領域の研究課題について、倫理的問題を説明できる。</li> <li>4) 母子支援看護学領域の研究課題について、データ収集の方法を説明できる。</li> <li>5) 母子支援看護学領域の研究課題について、結果のまとめ方について説明できる。</li> <li>6) 母子支援看護学領域の研究課題について、結果の分析方法について説明できる。</li> <li>7) 母子支援看護学領域の研究課題について、適切な考察について説明できる。</li> <li>8) 一連の内容をプレゼンテーションできる。</li> </ol>			
● 評価方法	発表 40%、討論 20%、レポート 40%により、総合的に評価する。		
● 参考文献	必要に応じて紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	演習計画および内容説明	森本
2	研究の紹介、検討	母子支援看護学に関する研究テーマについて紹介し、検討する	松浦 中村 森本
3～6	関連文献の精読	母子支援看護学に関する研究テーマに関連した文献を精読し、母子支援看護学に関する研究の進め方を検討する	松浦 中村 森本
7	研究デザインの検討	母子支援看護学に関する研究テーマに即した研究デザインを検討する	松浦 中村 森本
8	量的分析の検討	母子支援看護学に関する研究テーマの量的分析の検討	松浦 中村 森本
9	質的分析の検討	母子支援看護学に関する研究テーマの質的分析の検討	松浦 中村 森本
10	研究計画書作成手法	母子支援看護学に関する研究テーマに即した研究計画書をもとに、倫理審査申請書を作成する	松浦 中村 森本
11	研究における倫理的課題の検討	関連領域の研究における倫理的課題とその検討	松浦 中村 森本
12～14	考察に関連した文献精読	母子支援看護学に関する研究テーマに関連した文献を精読し、母子支援看護学に関する研究の考察を深める	松浦 中村 森本
15	まとめ	本科目のまとめ	森本

科目名		コミュニティ看護学特論	
科目責任者		仲野 宏子 (産業・地域看護学 准教授)	
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>コミュニティ看護の理念と枠組みを理解し、コミュニティ看護の対象を多角的に捉え、対象の持つ健康課題やソーシャルサポート、家族アセスメント、パートナーシップ等を基盤とするコミュニティとの協働的アプローチについて学修する。また、理論的枠組みを用いて各ライフステージの個人、家族、グループ・コミュニティへの効果的な支援方法を探究する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニティ看護の理念を説明できる。</li> <li>2) コミュニティ看護の理論的枠組みを説明できる。</li> <li>3) コミュニティ看護の対象を多角的視点から説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 家族ケア理論について説明できる。</li> <li>② 家族支援について説明できる。</li> <li>③ ソーシャルサポートについて説明できる。</li> </ol> </li> <li>4) コミュニティにおける協働的アプローチについて説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 家族を基盤とするアプローチについて説明できる。</li> <li>② パートナーシップを基盤とするアプローチについて説明できる。</li> <li>③ ソーシャルサポートを基盤とするアプローチについて説明できる。</li> </ol> </li> <li>5) 協働的アプローチにおける倫理的課題が説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	レポート 60%、プレゼンテーション 30%、ディスカッション内容 10%を総合して評価する。		
● 参考文献	Jon Glasby, Helen Dickinson: Partnership working in health and social care. 2014 地域看護アセスメントガイド第2版 2018 医歯薬出版 地域アセスメント: 地域ニーズ把握の技法と実際 2017 学文社		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	コミュニティ看護とは	コミュニティ看護とは	仲野
2	コミュニティ看護の理論的枠組み(1)	コミュニティ看護の理論的枠組みについて	仲野
3	コミュニティ看護の理論的枠組み(2)	コミュニティ看護の理論的枠組みについて	仲野
4	コミュニティ看護の理論的枠組み(3)	コミュニティ看護の理論的枠組みについて	仲野
5	家族のケア理論と方法論	家族ケア理論と方法論(家族システム理論)	仲野
6	家族のケア理論と方法論	家族ケア理論と方法論(家族周期理論)	仲野
7	家族のケア理論と方法論	家族ケア理論と方法論(家族危機理論)	仲野
8	ソーシャルサポート	コミュニティにおけるソーシャルサポート①	仲野
9	ソーシャルサポート	コミュニティにおけるソーシャルサポート②	仲野
10	パートナーシップ	コミュニティにおけるパートナーシップ①	仲野
11	パートナーシップ	コミュニティにおけるパートナーシップ②	仲野
12	コミュニティマネジメント	コミュニティを基盤とするマネジメント	仲野
13	協働的アプローチ	コミュニティにおける協働的アプローチ①	仲野
14	協働的アプローチ	コミュニティにおける協働的アプローチ②	仲野
15	アプローチの倫理的課題	コミュニティを基盤とするアプローチの倫理的課題	仲野

科目名		コミュニティ看護学演習 I	
科目責任者 仲野 宏子		(産業・地域看護学 准教授)	
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>地域で生活する乳幼児から高齢者までの人々の健康課題を地域診断をもとに明確化し、理論活用した支援方法を学ぶ。また、先駆的な活動に関する文献をクリティークし、地域看護を基盤とした健康課題を探求し、研究に発展できる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域を取り巻く健康課題と保健・医療・福祉の動向が説明できる。</li> <li>2) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの理論と方法論について説明できる。</li> <li>3) 地域診断の基本となるコミュニティアセスメントの理論と方法が説明できる。</li> <li>4) 地域診断に基づくプログラム開発と評価のためのEBN/EBが説明できる。</li> <li>5) 理論に基づく保健活動の実際について説明できる。</li> <li>6) グループ定義とグループ支援の理論と方法論が説明できる。</li> <li>7) コミュニティの組織化に関する理論と方法論が説明できる。</li> <li>8) 保健・医療・福祉システムにおけるコミュニティ活動に関する文献検討ができる。</li> <li>9) 地域看護を基盤とした対象の研究論文を読みクリティークできる。</li> <li>10) 地域看護を基盤とした視点で健康課題を明確化し、研究に発展できる。</li> </ol>			
● 評価方法	レポート 70%、プレゼンテーション 20%、ディスカッション 10%により総合的に評価する。		
● 参考文献	別途指示		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	授業計画及び内容に関するガイダンス	仲野
2	コミュニティにおける健康課題	地域を取り巻く健康課題と保健・医療・福祉の動向	仲野
3	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの理論と方法論	仲野
4	地域診断	コミュニティアセスメントの理論と方法	仲野
5	地域診断に基づくプログラム開発	地域診断に基づくプログラム開発と評価のためのEBN/EB	仲野
6	理論に基づく保健活動の実際	理論に基づく保健活動の実際	仲野
7	グループ・集団のケア理論と方法論	グループ定義とグループ支援の理論と方法論	仲野
8	コミュニティの組織化に関する理論と方法論	コミュニティオーガニゼーション、コミュニティエンパワーメント、コミュニティキャパシティ	仲野
9	コミュニティ活動に関する文献検討方法①	保健・医療・福祉システムにおけるコミュニティ活動に関する文献検討方法①	仲野
10	コミュニティ活動に関する文献検討方法②	保健・医療・福祉システムにおけるコミュニティ活動に関する文献検討方法②	仲野
11	先駆的な活動事例①	地域看護実践(母子事例)	仲野
12	先駆的な活動事例②	地域看護実践(がん事例)	仲野
13	先駆的な活動事例③	地域看護実践(精神事例)	仲野
14	先駆的な活動事例④	地域看護実践(高齢者事例)	仲野
15	コミュニティ看護実践研究の開発	地域看護実践における研究方法の検討と開発	仲野

科目名		コミュニティ看護学演習Ⅱ	
科目責任者		仲野 宏子 (産業・地域看護学 准教授)	
開講時期:	2年次通年	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>コミュニティで生活する乳幼児から高齢者までの人々の健康課題を明確化し、在宅看護学の理論や方法論を活用した支援方法を学ぶ。また、先駆的な活動に関する文献をクリティークし、それらを活用しながら、在宅看護学を基盤としたコミュニティに着目した健康課題をフィールドワークを通して、探求できる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニティで生活する個人・家族を取り巻く健康課題が説明できる。</li> <li>2) 個人のケア理論と方法論が説明できる。</li> <li>3) 在宅看護に活用できる理論と方法論が説明できる。</li> <li>4) 在宅看護過程の特徴を踏まえて展開できる。</li> <li>5) 家族理論を活用した支援の展開が説明できる。</li> <li>6) 在宅看護の質の評価とリスクアセスメントが説明できる。</li> <li>7) ケアマネジメント理論とプロセスが説明できる。</li> <li>8) 関係職種とのネットワークとケアシステムの構築について説明できる。</li> <li>9) 在宅看護活動に関する文献検討方法ができる。</li> <li>10) 在宅看護を基盤とした研究論文を読みクリティークできる。</li> <li>11) 在宅看護を基盤とした健康課題を研究に発展できる。</li> </ol>			
● 評価方法	レポート 60%、フィールドワーク状況(プレゼンテーション含む) 30%、ディスカッション 10%を総合的に評価する。		
● 参考文献	別途指示		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	授業計画及び内容に関するガイダンス	仲野
2	コミュニティにおける健康課題	コミュニティで生活する個人・家族を取り巻く健康課題	仲野
3	個人のケア理論と方法論	セルフケア理論と保健行動モデルと支援方法	仲野
4	地域・在宅看護の理論と方法論	在宅看護に活用できる理論と方法論	仲野
5	地域・在宅看護の質の評価	在宅看護の質の評価とリスクアセスメント	仲野
6	ケアマネジメント理論	ケアマネジメント理論とプロセス	仲野
7	ケアマネジメントの方法論	関係職種とのネットワークとケアシステムの構築	仲野
8	コミュニティ活動に関する文献検討方法	コミュニティ活動を基盤とした地域・在宅看護に関する文献検討方法	仲野
9	地域・在宅看護実践研究の開発	地域・在宅看護実践における研究方法の検討と開発	仲野
10	地域・在宅看護実践研究の開発	地域・在宅看護実践の場におけるフィールドワーク計画	仲野
11	地域・在宅看護実践研究の開発	地域・在宅看護実践の場におけるフィールドワーク	仲野
12	地域・在宅看護実践研究の開発	地域・在宅看護実践の場におけるフィールドワーク	仲野
13	地域・在宅看護実践研究の開発	地域・在宅看護実践の場におけるフィールドワーク	仲野
14	地域・在宅看護実践研究の開発	地域・在宅看護実践の場におけるフィールドワーク発表、ディスカッション	仲野
15	地域・在宅看護実践研究の開発	フィールドワーク まとめ	仲野

科目名		看護管理学特論	
科目責任者 立石 和子		(基礎看護学 教授)	
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>看護組織の管理運営、看護サービスの提供と質の保証、人的資源開発等の看護管理において求められる基礎的知識および理論について学習する。また看護政策の策定過程や変遷を展望し、今日の主要な看護政策の動向について理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床現場において適切な組織運営を行うための知識を身につける。</li> <li>2) 臨床現場における人材管理について理解する。</li> <li>3) 看護サービスの質の評価・改善の理論や方法について理解する。</li> <li>4) 看護政策の策定過程や変遷を理解する。</li> <li>5) 看護における経済性について理解する。</li> </ol>			
● 評価方法	討議への参加度 20%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 40%		
● 参考文献	随時紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の概要、看護管理について修得する	立石
2	組織論	組織論について修得する	立石
3	リーダーシップ論	リーダーシップ論について修得する	立石
4～6	サービスマネジメント論	看護・医療サービスの質の評価・向上に関して理解する	立石
7	看護政策論	看護政策における動向や策定プロセスについて理解する	立石
8	看護経済	看護における経済性について理解する	立石
9	財務管理	財務管理論について修得する	立石
10	人材管理	医療における人材管理やキャリア開発について理解する	立石
11～14	事例検討	看護管理における事例について検討する	立石
15	まとめ	総括	立石

科目名		看護管理学演習 I	
科目責任者 立石 和子		(基礎看護学 教授)	
開講時期:	1年次後学期	単位数:	2 単位
		時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>実際の論文の講読と討論を通じて看護管理研究の実践のための基礎的能力を養う。文献検討を通し、論文作成に必要な情報や新たな知見を広く修得する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護管理に関する文献を検索できる。</li> <li>2) 看護管理に関する理論・手法を理解でき、説明できる。</li> <li>3) 看護管理に関する研究テーマの検討ができる。</li> <li>4) 最近の看護管理に関する課題・問題について理解でき、説明できる。</li> <li>5) わが国のみならず世界での看護管理に関する制度・政策について理解でき、説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	討議への参加度 20% プレゼンテーション 40% 課題レポート 40%		
● 参考文献	随時紹介する。		

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	演習の実施方法、諸注意、演習の目的の説明、看護管理の概要の紹介	立石
2	文献検索の方法	文献検索方法の確認	立石
3	最近の看護管理のトピック	看護管理に関する最近の動向	立石
4～8	課題論文の講読	課題論文として用意された看護管理に関する論文について、学生が講読・発表し、参加者で検討する	立石
9～14	検討論文の検索・収集と講読	学生自身が看護管理に関する論文を検索・収集を実施した後、その論文について講読・発表し、参加者で検討する	立石
15	まとめ	本講義で学んだ内容を整理する	立石

科目名	看護管理学演習Ⅱ	
科目責任者	立石 和子	(基礎看護学 教授)
開講時期:	2年次通年	単位数: 2 単位 時間数: 90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>看護管理学に関する研究テーマに関連した看護管理に関する文献の批判的吟味や討論を通じて看護管理学に関する研究課題を明確にする。また、看護管理学に関する研究課題に適した研究方法論、統計解析手法などの看護研究の手法について理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護管理学に関する研究を遂行するために参考となる文献を検索できる。</li> <li>2) 看護管理学に関する研究に必要な統計手法について理解でき、説明できる。</li> <li>3) 看護管理学に関する倫理的課題が説明できる。</li> <li>4) 看護管理学に関する研究の考察ができる。</li> </ol>		
● 評価方法	討議への参加度 20% プレゼンテーション 40% 課題レポート 40%	
● 参考文献	随時紹介する。	

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	演習の実施方法、諸注意、演習の目的の説明	立石
2	研究の紹介および検討	看護管理学に関する研究テーマについて紹介、検討する	立石
3～5	関連文献の精読	看護管理学に関する研究テーマに関連した文献を精読し、看護管理学に関する研究の進め方を検討する	立石
6・7	研究デザインの検討	看護管理学に関する研究テーマに即した研究デザインを検討する	立石
8・9	統計手法の検討	看護管理学に関する研究テーマに即した統計解析手法を検討する	立石
10・11	研究における倫理的課題の検討	関連領域の研究における倫理的課題とその検討	立石
12～14	考察に関連した文献精読	看護管理学に関する研究テーマに関連した文献を精読し、看護管理学に関する研究の考察を深める	立石
15	まとめ	総括	立石

科目名			<b>メンタルヘルス看護学特論</b>		
科目責任者		松尾 綾	(広域・発達看護学 講師)		
担当者		黒坂 知絵	(人間情報科学 准教授)		
開講時期:	1年次前学期	単位数:	2 単位	時間数:	90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>個人や集団のライフサイクルを考慮したうえで、メンタルヘルス看護を実践するための必要な理論を学ぶ。精神障害者を取り巻く現状を理解し、看護職に求められる役割、今後の展望について学習する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心の発達について理解する。</li> <li>2) ライフサイクルに応じたメンタルヘルスの問題について理解する。</li> <li>3) 心理学(精神力動論、交流分析等)について理解する。</li> <li>4) ストレスの測定方法およびストレスマネジメントの実際について学ぶ。</li> <li>5) 精神医療保健福祉の現状と今後の方向性について理解する。</li> <li>6) 精神障害者を取り巻く状況を理解し、看護者としての役割を考える。</li> <li>7) 対人関係モデルについて学ぶ。</li> <li>8) 精神看護領域におけるコンサルテーションについて理解する。</li> </ol>					
● 評価方法	プレゼンテーション内容 40%、ディスカッションの内容 20%、課題レポート 40%				
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。				

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	メンタルヘルス	メンタルヘルスの基本	松尾 黒坂
2	ライフサイクルと心の発達	ライフサイクルと心の発達	松尾
3	精神障害とリカバリー	リカバリーの概念と関連する理論	松尾
4	ストレスとストレスの評価	ストレスとストレスの客観的な評価と主観的評価	松尾 黒坂
5	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントの実際	松尾
6	メンタルヘルスの現状と課題	メンタルヘルスの現状の理解とその課題	松尾
7	精神医療保健福祉	精神医療保健福祉の現状と今後の方向性	松尾 黒坂
8	精神障害者の理解	精神障害者を取り巻く状況、生活の現状	松尾
9	サポートシステム	精神障害者およびその家族のサポートシステム	松尾
10	精神科における治療	薬物療法、精神療法の基本と臨床での実践	松尾
11	対人関係論	メンタルヘルス看護学領域における対人関係モデル	松尾
12	対人関係の技法	援助者としての対人関係技法、および自己活用	松尾
13	精神看護コンサルテーション	精神看護領域におけるコンサルテーション機能とリエゾン精神看護	松尾
14	対応困難事例	対応困難な患者行動の理解とその対応	松尾
15	まとめ	本科目のまとめ	松尾 黒坂

科目名	メンタルヘルス看護学演習 I	
科目責任者	松尾 綾	(広域・発達看護学 講師)
担当者	黒坂 知絵	(人間情報科学 准教授)
開講時期:	1年次後学期	単位数: 2 単位
		時間数: 90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>メンタルヘルス看護学の特徴と動向を理解するために、関連する文献を選定し、批判的吟味を行い議論する。自己の研究課題について探求する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) メンタルヘルス看護学の現状や課題について理解する。</li> <li>2) メンタルヘルス看護学に関する論文について、批判的に読む力を養う。</li> <li>3) 自己の研究課題を探求することができる。</li> <li>4) メンタルヘルス看護学演習 IIを受講するための基本的な知識、技術を培う。</li> </ol>		
● 評価方法	文献のクリティークの内容 40%、ディスカッションの内容 20%、プレゼンテーション内容 40%	
● 参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。	

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の進め方のガイダンス、および論文の紹介	松尾 黒坂
2～4	精神障害者支援に関する論文講読	国内外の精神障害者支援に関する論文の講読、議論を行う	松尾
5～7	メンタルヘルス支援と人間工学に関する論文講読	人間工学の視点からメンタルヘルス支援に関する論文の講読・議論を行う	黒坂
8～10	リエゾン精神看護に関する論文講読	国内外のリエゾン精神看護に関する論文の講読、議論を行う	松尾
11～13	精神保健対策に関する論文講読	国内外の精神保健対策に関する論文の講読、議論を行う	松尾
14	研究課題についてのプレゼンテーション	メンタルヘルス看護学に関する研究課題を紹介し議論する	松尾 黒坂
15	まとめ	本講義で学んだ内容を整理する	松尾 黒坂

科目名	<b>メンタルヘルス看護学演習Ⅱ</b>	
科目責任者	松尾 綾	(広域・発達看護学 講師)
担当者	黒坂 知絵	(人間情報科学 准教授)
開講時期:	2年次通年	単位数: 2 単位
		時間数: 90分× 15 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>これまでのメンタルヘルス看護学特論、メンタルヘルス看護学演習Ⅰで学んだ知識や技術を活用して、議論を通して、メンタルヘルス看護学領域における自己の研究課題を明確にする。自己の研究を遂行するにあたり、議論を通して、論文作成、発表、投稿に関する基礎的能力を修得する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連した文献をクリティークできる。</li> <li>2) メンタルヘルス看護学領域の研究課題について、研究方法を説明できる。</li> <li>3) メンタルヘルス看護学領域の研究課題について、倫理的問題を説明できる。</li> <li>4) メンタルヘルス看護学領域の研究課題について、データ収集の方法を説明できる。</li> <li>5) メンタルヘルス看護学領域の研究課題について、結果のまとめ方について説明できる。</li> <li>6) メンタルヘルス看護学領域の研究課題について、結果の分析方法について説明できる。</li> <li>7) メンタルヘルス看護学領域の研究課題について、適切な考察について説明できる。</li> <li>8) 一連の内容をプレゼンテーションできる。</li> </ol>		
● 評価方法	ディスカッションの内容 50%、課題レポート 50%	
● 参考文献	必要に応じて紹介する。	

● 授業計画

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	演習計画および内容の説明	松尾 黒坂
2	研究の紹介・検討	メンタルヘルスに関する研究テーマについて紹介し、検討する	松尾 黒坂
3～5	関連文献の精読	メンタルヘルスに関する研究テーマに関連した文献を精読し、メンタルヘルスに関する研究の進め方を検討する	松尾 黒坂
6・7	研究デザインの検討	メンタルヘルスに関する研究テーマに即した研究デザインを検討する	松尾 黒坂
8	研究における倫理的課題の検討	関連領域の研究における倫理的課題とその検討	松尾 黒坂
9・10	研究データの分析方法の検討	メンタルヘルスに関する研究テーマに即したデータの分析方法を検討する	松尾 黒坂
11・12	メンタルヘルスに関する研究課題に関連した結果の考察	メンタルヘルスに関連する考察の方法について先行研究を参考に検討する	松尾 黒坂
13・14	プレゼンテーション技法の検討	プレゼンテーション技法の検討を行い、その手法を活用する	松尾 黒坂
15	まとめ	本科目の総括	松尾 黒坂